

暮らしの中の千夜一話

１１月も半ばを過ぎると夕暮れの風は急に鋭さを増す。長年勤めた職場を退いて半年、千鶴の毎日は音のない水底を漂うような静けさの中にあった。何かを始めようにも、どこへ向かえばいいのか分からない。その日、庭のキンモクセイの冬支度をしていた千鶴は、ふと手を止めた。秋風に吹かれて葉がすっかり落ち、透き通るようになった枝の間に、見慣れない小さな塊を見つけたのだ。背伸びをして顔を近づけてみる。目線の少し上、二股に分かれた細い枝の間に、手のひらに収まるほどのお椀型の小鳥の巣がちょこんと腰掛けていた。雛たちが無事に巣立ったあとの、役目を終えた古巣だった。そっと指先で触れてみると、枯れ枝や柔らかな苔、クモの糸が驚くほど緻密に編み込まれている。そして縁には、見覚えのある淡いブルーの細い糸が幾重にも丁寧に絡まっていた。退職したばかりの春先、持て余した時間を埋めるように庭先でパッチワークをしていた。巣の縁を彩っているブルーの糸は、そのときに使ったリネンの切れ端の糸くずだ。千鶴は思わず息を呑んだ。あの所在ない日々の欠片を、小さな鳥が拾い集めていたのだ。冷たい雨風から新しい命を守るために、誰の手も借りず、くちばしひとつで築かれた小さな奇跡。自分はただ立ち止まり、空っぽの日々を過ごしていると思い込んでいたけれど、世界は千鶴の知らないところで、千鶴の暮らしとたしかにつながり、温かな命を育んでいたのだ。夕暮れの橙色の光が葉を落とした梢を静かに照らし出している。冷え込んできた指先とは裏腹に、胸の奥には確かな火が灯っていた。千鶴は庭に吹き抜ける澄んだ秋の空気を、胸いっぱいに深く吸い込んだ。



トピックを探る

今月のトピック：【猫の印鑑「ねこずかん」】

「ねこずかん」は猫のデザインに名前を入れられるオーダーメイドの印鑑です。倒産寸前だった大阪の印鑑メーカーを救ったねこずかんは２０１６年に登場、その後のシリーズは犬や花鳥、キャラクターやアニメとのコラボで 60 種類以上を展開し販売数は 17 万本に及びます。伝統的な風習と職人芸が大ヒット商品に開花した、胸熱の好例です。



― 弊社のモットー ―

私共はあなた様の想いに誠心誠意、奉仕致します。　つまり、
愚直に、真面目に、地道に、誠実に、謙虚に、スピード感を持ってことにあたります。

株式会社　エルフォルク

〒733-0002
広島市西区楠木町３丁目 10-22
TEL：082-230-8870　FAX：082-230-8871
https://www.tent-erfolg.co.jp